

[B年] 待降節第4主日(2022年12月18日)**【旧約聖書日課】 イザヤ書 11章1～10節**

- 1 エッサイの株からひとつの芽が萌えいで
その根からひとつの若枝が育ち
- 2 その上に主の霊がとどまる。
知恵と識別の霊
思慮と勇気の霊
主を知り、恐れ敬う霊。
- 3 彼は主を恐れ敬う霊に満たされる。
目に見えるところによって裁きを行わず
耳にするところによって弁護することはない。
- 4 弱い人のために正当な裁きを行い
この地の貧しい人を公平に弁護する。
その口の鞭をもって地を打ち
唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。
- 5 正義をその腰の帯とし
真実をその身に帯びる。
- 6 狼は小羊と共に宿り
豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち
小さい子供がそれらを導く。
- 7 牛も熊も共に草をはみ
その子らは共に伏し
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
- 8 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ
幼子は蝮の巣に手を入れる。
- 9 わたしの聖なる山においては
何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように
大地は主を知る知識で満たされる。
- 10 その日が来れば
エッサイの根は
すべての民の旗印として立てられ
国々はそれを求めて集う。
そのとどまる場所は栄光に輝く。

【使徒書日課】**コリントの信徒への手紙一 1章26～31節**

26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのこ
とを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知
恵のある者が多かったわけではなく、能力のあ

る者や、家柄のよい者が多かったわけでもあり
ません。27ところが、神は知恵ある者に恥をかか
せるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥
をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。
28また、神は地位のある者を無力な者とするた
め、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下
げられている者を選ばれたのです。29それは、だ
れ一人、神の前で誇ることがないようにするた
めです。30神によってあなたがたはキリスト・イ
エスに結ばれ、このキリストは、わたしたちに
とって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられ
たのです。31「誇る者は主を誇れ」と書いてある
とおりになるためです。

【福音書日課】 ルカによる福音書 1章26～38節

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレとい
うガリラヤの町に神から遣わされた。27ダビデ
家のヨセフという人のいいなずけであるおとめ
のところに遣わされたのである。そのおとめの
名はマリアといった。28天使は、彼女のところに
来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主が
あなたと共におられる。」29マリアはこの言葉に
戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え
込んだ。30すると、天使は言った。「マリア、恐
れることはない。あなたは神から恵みをいただ
いた。31あなたは身ごもって男の子を産むが、そ
の子をイエスと名付けなさい。32その子は偉大
な人になり、いと高き方の子と言われる。神で
ある主は、彼に父ダビデの王座をくださる。33彼
は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わる
ことがない。」34マリアは天使に言った。「どう
して、そのようなことがありえましょうか。わ
たしは男の人を知りませんのに。」35天使は答え
た。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力が
あなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、
神の子と呼ばれる。36あなたの親類のエリサベ
トも、年をとっているが、男の子を身ごもって
いる。不妊の女と言われていたのに、もう六か
月になっている。37神にできないことは何一つ
ない。」38マリアは言った。「わたしは主のはし
ためです。お言葉どおり、この身に成りますよ
うに。」そこで、天使は去って行った。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

イザヤ書 11章1～10節

- 1 エッサイの株から一つの芽が萌え出で
その根から若枝が育ち
- 2 その上に主の霊がとどまる。
知恵と分別の霊
思慮と勇気の霊
主を知り、畏れる霊。
- 3 彼は主を畏れることを喜ぶ。
その目に見えるところによって裁かず
その耳の聞くところによって判決を下さない。
- 4 弱い者たちを正義によって裁き
地の苦しむ者たちのために公平な判決を下す。
その口の杖によって地を打ち
その唇の息によって悪人を殺す。
- 5 正義はその腰の帯となり
真実はその身の帯となる。
- 6 狼は小羊と共に宿り
豹は子山羊と共に伏す。
子牛と若獅子は共に草を食み
小さな子どもがそれを導く。
- 7 雌牛と熊は草を食み
その子らは共に伏す。
獅子も牛のようにわらを食べる。
- 8 乳飲み子はコブラの穴に戯れ
乳離れした子は毒蛇の巣に手を伸ばす。
- 9 私の聖なる山のどこにおいても
害を加え、滅ぼすものは何もない。
水が海を覆うように
主を知ることが地を満たすからである。
- 10 その日になると
エッサイの根がもろもろの民の
旗印として立つ。
国々は彼を求め
彼のとどまる場所は栄光に輝く。

コリントの信徒への手紙一 1章26～31節

26きょうだいたち、あなたがたが召されたときのことを考えてみなさい。世の知恵ある者は多くはなく、有力な者や家柄のよい者も多くは

いませんでした。27ところが、神は知恵ある者を恥じ入らせるために、世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるため、世の弱い者を選びました。28また、神は世の取るに足りない者や軽んじられている者を選びました。すなわち、力ある者を無力な者にするため、無に等しい者を選ばれたのです。29それは、誰一人、神の前で誇ることがないようにするためです。30あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのです。キリストは、私たちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。31「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

ルカによる福音書 1章26～38節

26六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアと言った。28天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」29マリアはこの言葉にひどく戸惑って、これは一体何の挨拶かと考え込んだ。30すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。31あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。32その子は偉大な人になり、いと高き方の子と呼ばれる。神である主が、彼に父ダビデの王座をくださる。33彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」34マリアは天使に言った。「どうして、そんなことがありえましょうか。私は男の人を知りませんのに。」35天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを覆う。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。36あなたの親類のエリサベトも、老年ながら男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。37神にできないことは何一つない。」38マリアは言った。「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように。」そこで、天使は去って行った。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・12月18日「待降節第4主日」の日課主題は「告知」。「待降節第4主日」から始まる週に、「降誕祭」の祝いの始まりである「降誕日前夜」を迎える。この「待降節」最後の主日から、「降誕」の物語が始められる。

・旧約聖書日課は、「イザヤ書」から、ダビデ王家のメシア誕生預言の箇所。使徒書日課は、「コリントの信徒への手紙一」から、神による選びの信仰を教える箇所。福音書日課は、「ルカによる福音書」から、マリアへの受胎告知の箇所。

旧約日課(イザヤ11章より)

・「イザヤ書」は、三大預言書の一つで、ユダヤ正典「後の預言者」の第一に置かれる。背景の時代によって、39章までの第一部と40章以下の第二部に分けられ、前者を「第一イザヤ」、後者を「第二イザヤ」と呼ぶ習慣がある。歴史的預言者である「イザヤ」に直接帰されるのは「第一イザヤ」で、紀元前8世紀後半の南王国で四代の王に仕えた宮廷預言者「イザヤ」の預言集と預言活動の記録という体裁でまとめられている。「第一イザヤ」には、イザヤの召命に関する記述(6章)、アハズ王時代のイザヤの活動記録(7章)など、活動時期を特定される文書が置かれており、預言集部分も時代順に編纂されているものと考えて解釈することができる。36~39章は、ヒゼキヤ王時代のイザヤに関する物語であるが、「列王記」下18~20章とまったく同じ文書が充てられている。

・日課箇所は、「第一イザヤ」中に置かれた、ダビデ王家のメシア誕生預言が告げられる箇所。歴史的預言者イザヤの預言活動は、南王国ウジヤ王の没年(前742年ごろ)に始められ(6章)、おもにアハズ王時代(在位=前735~715年頃)とヒゼキヤ王時代(在位=前715~687年頃)の預言と活動が本預言書に記録されているとみられる。ウジヤ王の没年は、アッシリアでティグラト・ピレセル王(プル)が即位した時期と重なり、アッシリアの軍事侵攻によってオリエント世界が大きく動き始める時代である。北王国イスラエルは、前722年頃にサルゴン王率いるアッシリア軍によってサマリア陥落、滅亡に追い込まれている。この際、南王国ユダがアッシリアの侵攻を逃れられたのは、当時のアハズ王がアッシリアの支配下に入ったことによる。遡って、アッシリアが勢力を拡大し始めた時期、北王国(イスラエル=エフライム)は、北隣アラム王国(シリア・ダマスコ)と同盟を組み、アッシリアに対抗しようとしたが、その際、南王国をも自分たちの同盟に取り込もうとして、南王国に対して外交的および軍事的な圧力をかけていた。北王国は、同盟に応じない南王国アハズ王に対して退位を迫り、傀儡の王を立てようと画策していたことが、「イザヤ書」7章に伝えられている。この北王国の要求を突っぱねたアハズ王は、アッシリアの庇護を得る道を選んだのである。

・この一連の出来事の中で、北王国の画策によりアハズ王が退位させられ、傀儡の王が立てられようとしたことが背景となって、7章のインマヌエル預言が告げられ、続けて9章や11章に男児誕生預言が置かれている。すなわち、アハズ王のダビデ王家が途絶えさせられることなく、王位が継承者(すなわちヒゼキヤ)によって引き継がれることを告げているのである。これらのうち、7章は、アハズ王が北王国の要求に応ずるかどうかという時期に告げられたものとされているが、9章および11章は、おそらく、ヒゼキヤ王即位に際して執行された即位儀礼で告げられた王国祭儀的預言の記録が元になっていると見ることができる。

・日課箇所は、ダビデ王家を意味する「エッサイの株」から生まれる新しい王の時代を、希望に満ちた言葉で描き出している。このような預言の言葉は、王の即位儀礼に伴うものであると考えれば当然のもので、これらの預言に終末的な思想が織り込まれているわけではない。

使徒書日課(1コリント1章より)

・「コリントの信徒への手紙一」は、「パウロ書簡集」の一つで、パウロが自ら創設に関わったコリント教会に宛てて記した一連の書簡の中の一つ。新約文書には「手紙二」も収められているが、おそらく他にも複数の書簡が著され、コリント教会との間にやり取りが繰り返されていたと考えられる。コリントの教会は、パウロがバルナバ宣教団から独立して自らの宣教団を組織した後、マケドニア宣教の延長で進めた宣教によって創設された。その際、すでに成立していたローマの教会共同体に属するユダヤ人夫妻アキラとプリスキラが協力者として重要な役割を担ったことが、「使徒言行録」18章に伝えられている。彼らを通して、コリントの教会共同体は、ローマの教会共同体および使徒ペトロの影響を大きく受けながら発展したことは間違いのない。一方で、アレクサンドリア出身のアポロも深く関わっていたことがパウロ自身の記すところによって明らかであり(1コリ1~3章)、コリントの教会共同体は、異なる発展を遂げていた複数の主要教会の影響を受けながら、パウロの指導者としての位置づけの是非が問題にされるような状況が続いていたと考えられる。「手紙一」は、そのような共同体内での対立が露わになり始めた初期に、パウロが指導者としての自負を強く持って臨み、助言と弁明を記した書簡である。

・日課箇所は、パウロは、自分自身の立ち位置を明らかにするために、コリント教会の信者らの立ち位置を「神の選び」という視点から明らかにしようとしていた。パウロは、1世紀当時のローマ帝国支配下で、ユダヤ人社会における成功者の家系に生まれ、各地の権力者と関係を結ぶことができるような立場にあったと考えられ、「使徒言行録」は、彼がそのような立場を大いに活用して宣教を推し進めていたことを示唆する記述を重ねている。しかし、パウロ自身は、むしろ、自分の生まれ持つ社会的立場に依って宣教活動を進

めていると見られることを、極力避けていたと思われる。コリントの教会共同体には、彼と同じように、ローマで優位な社会的立場を形成してきた者らが加わると同時に、そうではない者たちをこそ積極的に受け入れようとするパウロの方針に同調する者たちがいたと考えられる。日課箇所でのパウロが述べていることは、そのような背景があつての言説であり、実際には、少なからず社会的に優位な立場の者や裕福な者が、教会共同体の構成メンバーとなっていたのであろう。

福音書日課(ルカ1章より)

・日課箇所は、「マリアへの受胎告知」として知られる伝承逸話。「ルカ福音書」は、一連の「主イエス誕生物語」(1~2章)を、「洗礼者ヨハネの誕生物語」と結びつけて展開しているが、他の福音書は、このような逸話物語を伝えていない。

・マリアに受胎を告知する天使(御使い←アンゲロス)ガブリエルは、前段の「洗礼者ヨハネ」の誕生をザカリアに告げる逸話の中でも登場しており、二つの逸話が一体的に組み立てられていることが分かる。

・27節「おとめ」は「パルテノス」で、「未婚女性」を意味する語。ギリシア神話の世界では、「アテーナー・パルテノス」という形で「処女神アテナ」を指す用語として知られる。「パルテノン神殿」は、「処女神アテナ」を祀る神殿。マリアにこの用語を充てたのは、純粋に「未婚女性」であることを示すだけでなく、「処女神アテナ」のイメージを援用しようとした意図も考えられる。

・ガブリエルの「挨拶」の冒頭の言葉「おはよう」は「カイレ」で、「喜ぶ(カイロー)」の命令形。

来週の誕生日 (12月18日~24日)

主日礼拝の讚美歌から

・21-242 番「主を待ち望むアドヴェント」は、「聖書と祈りの会 221123」を参照。

・21-244 番「キリストは明日おいでになる」は、20世紀後半の英語圏における讚美歌創作運動(ヒム・エクスプロージョン)の担い手の一人として知られる英国ウェールズ会衆派教会牧師のフレッド・カーン(フレデリック・カーン)の作詞。曲は、カーンとのコンビでの作曲で知られるドリーン・ポッターによる。

・21-178 番「あがめます主を」は、20世紀スリランカのメソジスト派牧師ナイルズが「マリアの賛歌(マニフィカト)」に基づいて作詞。ナイルズは、アジアキリスト教協議会の前身組織で書記、総幹事を務めた経歴の持ち主で、超教派運動を推進した。曲は、インドネシア・マルク地方の伝統曲による。

・21-229 番「いま来たりませ」(= II 96)は、M・ルターの作詞となっているが、原詞は4世紀のミラノ司教アンブロシウスのラテン語賛歌「Veni Redemptor gentium(おいでください、異邦人の救い主)」に基づく。曲も、アンブロシウスの賛歌に付けられたグレゴリオ聖歌を原曲にルターが編曲。ルターの関わった最初の讚美歌集(1524年)に所収。

21-244「キリストは明日おいでになる」

Tomorrow Christ is Coming

- 1 Tomorrow Christ is coming / As yesterday He came; / A child is born this moment- / We do not know its name. / The world is full of darkness, / Again there is no room; / The symbols of existence / Are stable, cross and tomb.
- 2 Tomorrow will be Christmas, / The feast of love divine, / But for the nameless millions / The star will never shine. Still is the census taken / With people on the move; / New infants born in stables / Are crying out for love.
- 3 There will be no tomorrows / For many a baby born. / Good Friday falls on Christmas / When life is sown as corn. / But Jesus Christ is risen / And comes again in bread / To still our deepest hunger / And raise us from the dead.
- 4 Our God becomes incarnate / In ev'ry human birth. / Created in God's image, / We must make peace on earth. / God will fulfil Love's purpose / And this shall be the sign: / We shall find Christ among us / As woman, child or man.

21-178「あがめます主を」

My Soul Doth magnify the Lord

1. My soul doth Magnify the Lord, / My spirit doth rejoice / In God my Saviour, for His word / Declared to me, the choice / Of His handmaiden to become / The mother of the Christ, / That for the son of God my home / And humble heart sufficed.
2. Behold, from henceforth to my name / Shall generation give / Their blessings, for the Lord who came / As man with man to live. / The mercy of our God is great / And great His deeds of love, / He looked upon man's low estate / And lifted him above.
3. The proud He scattered in their pride, / The rich must empty go, / The strong His strength doth set aside, / The mighty are brought low. / The humble are exalted high, / The hungry filled with food. / The God of Israel has drawn nigh, / The Lord, our God, is good

21-229「いま来たりませ」

Nun komm, der Heiden Heiland

1. Nun komm, der Heiden Heiland, / Der Jungfrauen Kind erkannt! / Dass sich wundre alle Welt, / Gott solch' Geburt ihm bestell.
2. Nicht von Mann's Blut noch von Fleisch, / Allein von dem Heil'gen Geist / Ist Gott's Wort worden ein Mensch / Und blüht ein' Frucht Weibesfleisch.
3. Der Jungfrau Leib schwanger ward, / Doch blieb Keuschheit rein bewahrt, / Leucht't hervor manch' Tugend schön, / Gott da war in seinem Thron.
4. Er ging aus der Kammer sein, / Dem königlichen Saal so rein, / G'ott von Art und Mensch ein Held, / Sein'n Weg er zu laufen eilt.
5. Sein Lauf kam vom Vater her / Und kehrt' wieder zum Vater, / Fuhr hinunter zu der Hoell' / Und wieder zu Gottes Stuhl.
6. Der du bist dem Vater gleich, / Füh'r hinaus den Sieg im Fleisch, / Dass dein' ew'ge Gott'sgewalt / In uns das krank' Fleisch erhalt'.
7. Dein' Krippe glänzt hell und klar, / Die Nacht gibt ein neu Licht dar, / Dunkel mus nicht kommen drein, / Der Glaub' bleibt immer im Schein.
8. Lob sei Gott dem Vater g'tan, / Lob sei Gott sein'm ein'gen Sohn, / Lob sei Gott dem Heil'gen Geist / Immer und in Ewigkeit!